

在来種を脅かす 特定外来生物

駆除活動に、ご協力を！

オオキンケイギクの防除作業

環境省は日本固有の動植物を駆逐する恐れのある生物を「特定外来生物」に指定し、その栽培や飼育、運搬などを規制しています。

植物の間では12種類が指定され、このうち市内では「オオキンケイギク」「オオハングソウ」「アレチウリ」の3種類が確認されています。

いずれの植物も強い繁殖力で市内全域に分布を広がっており、市では生態系や農作物への被害を抑えるため、昨年から防除活動に乗り出しました。今年5月からは防除作業員を6人雇用。11月まで市内を巡回しながら調査・駆除作業を進めます。

作業を担当する市環境課では、3種類の植物の繁殖拡大を防ぐため、地域での駆除活動や市民からの情報提供を呼びかけています。



2カ月で6トンを駆除

5月から8月は、オオキンケイギクの開花の季節。作業員は市民から寄せられた情報や巡回で発見したオオキンケイギクを根こそぎ引き抜き駆除します。6月末までの回収量は約6トンに上っています。

強い繁殖力で、市内全域に分布

特定外来生物に指定された植物「オオキンケイギク」「オオハングソウ」「アレチウリ」の3種類が広く市内で確認され、市では昨年からその防除に努めています。

駆除のポイントは 種ができる前に 根ごと抜きとる。

オオキンケイギク

〔キク科・多年草〕

開花時期…5～8月
繁殖方法…根と花（種）

オオハンゴンソウ

〔キク科・多年草〕

開花時期…7～10月
繁殖方法…根と花（種）

アレチウリ

〔ウリ科・1年草〕

開花時期…8～10月
繁殖方法…花（種）

北米原産。ハルシヤギクとも呼ばれます。草丈は30～70cm。道路沿いや河原などに集団となって広がっています。花は美しく、荒地でも生育することから、以前は道路まわりの修景によく利用され、栽培する人も多かったようです。しかし、旺盛な繁殖力で市内全域で自生が確認されています。



北米原産。草丈が50cm～3mにも伸びる大型の植物で、道路沿いや河原などに広がっています。湿気を好み、大群落を成して他の植物を締め出してしまします。花はキクイモ（菊芋）と似ています。中央の半球状に盛り上がった部分にたくさんの筒状の花があり、大きな黄色の花びらが垂れ下がるのが特徴です。



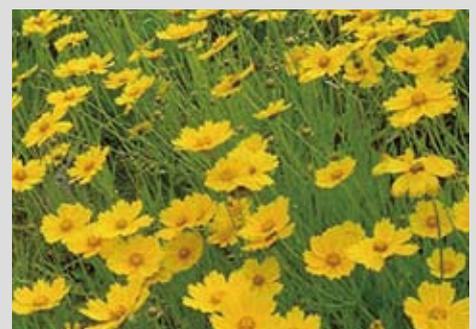
北米原産。大型のツル植物で、日当たりのいい河原や土手に広がります。葉やツルはざらつき、ツルには白い毛が生え、ウリ科植物特有の巻ヒゲで他の植物に絡みつき、驚異的な生育速度と繁殖力で密生します。工事残土や埋め戻し土砂などの客土に休眠種子が混じって広がることもあります。



駆除の効果に期待

防除活動は昨年の秋から始まったため、オオキンケイギクの駆除は実質的に今年からです。道路沿いや河川敷、荒地に多く、市内で広く確認されています。

多年草の植物は、種子や根で広がることから、種子や根が結実する前に根ごと抜きとることが確実な除去につながります。作業は手作業で大変。一日に約240kgの駆除した日もありました。1回だけの作業では翌年以降また再生してくるので、完全に除去するには数年かかるでしょう。でも活動を継続すれば確実に減っていくはず。地域の皆さん



の理解も進んでおり、作業も順調に進んでいます。8月からはオオハンゴンソウやアレチウリの防除が中心になります。最近はや見分けも鋭くなり、発見や見分けも容易になりました。市内からこの3種類の植物の根絶をめざし頑張ります。



特定外来生物
防除作業員

桂川 幸雄さん

情報提供やお問い合わせは環境部環境課 電話26-5011へ